



川柳と twitter

■ やすみ りえ

私がパソコンを本格的に使いはじめたのは川柳作家になってから。自分の作品を書籍としてまとめるために購入しました。携帯電話のほうはパソコンよりももう少し早く、約16年位のお付き合い。最初の頃のものは今では考えられないほど大きくて重く、仕事の連絡のために便利だから使っていましたがそれだけのものでしかなく、句の題材になるとも思っていませんでした。

しばらくして携帯電話にメール機能が付き、通話より文字でのやりとりが増え、移動中に思いついた句を記録するメモとして使ったり、題材として気になる情景を写真に撮っておいたり作品づくりのツールとしても応用するようになると、自然と句にも織り込むようになっていました。そうはいつでも10年前、

真夜中のメール送ってひとりきり

という句を発表すると川柳の諸先輩方に「なんて斬新な句」と驚かれたことを思い出します。現在、コンテストの選者としてたくさんの句に触れますが、パソコンも携帯電話もすっかり定着しています。また、今年の投句には昨年の公募ではまったく見られなかった「なう」などtwitter用語がたくさん使われていました。川柳というのは今の時代やそのときの心模様を詠む文芸ですが、IT環境はどんどん変化していきますので逆にいえば詠むに事欠きません。

そういえば、twitterは文芸ではないものの、今の事象や自分の心を短い文章で表すといっ

■ やすみりえ
川柳作家

神戸市出身。大学卒業後本格的に作句をスタート。恋を詠んだ作品が幅広い世代から人気を得る。全国各地の小・中学生を対象にした「ことばについて考えるワークショップ」講師。各メディアの川柳コーナーや企業や市町村の公募川柳の監修・選者も多数務める。文化庁文化審議会国語分科会委員。



た点で川柳と共通する部分があります。

映画やテレビといった映像を再現する手段を持っていなかった時代、五七五で表された情景や情感を人は心の中で3Dに変換して映像として観ていたのだと思います。江戸時代の有名な古川柳に、

国の母生まれた文を抱き歩き

という句があります。これはまだ交通手段がなく、孫が誕生してもすぐに会いに行くことのできないふるさとの母が、報せの手紙をまるで赤ん坊を抱くように慈しんでいる情景を詠んでいます。たった17文字を見ただけでその映像が浮かんでできませんか。今は写真や映像をすぐに送信することができます。それでもtwitterが流行するのは、短く情報を得たいということだけでなく、少ない情報からちゃんと多くの情報へと変換できる能力を人が持っており、またそのほうが伝わりやすい部分があるということではないでしょうか。アメリカで考えられたtwitter、実は日本では250年前に川柳という形で存在していたと言えるのかもしれない。

追記：このたびの東北関東大地震により被災された地域の皆様に心からお見舞い申し上げます。また、多くの尊い命が失われ、そのお一人おひとりの未来が断たれてしまったことに対し言葉もありません。謹んでお悔やみ申し上げます。この原稿は2月に寄稿させていただきました。私は神戸出身で阪神淡路大震災で被災の経験があります。本文内でお見舞いお悔やみをお伝えできなかったため追記させていただきました。(やすみりえ3月17日)

